

特別展

世界文化遺産登録記念

吉田松陰と松下村塾

— 明治の近代化・工業化にはたした役割 —

松下村塾（松陰神社境内）

平成27年

10月17日(土)～

平成28年

10月11日(火)

吉田松陰幽囚ノ旧宅（松陰神社境内）

松陰神社宝物殿

至誠館

〒758-0011 山口県萩市椿東1537
TEL 0838-24-1027 FAX 0838-24-1028

◎開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで) ◎休館日／年中無休
◎入館料／一般500円(400円) 中・高生250円(200円) 小学生100円(80円) ※()内は20人以上の団体料金

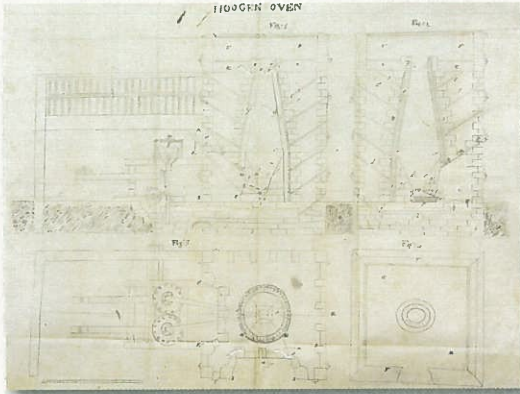
世界文化遺産登録記念

特別展

吉田松陰と松下村塾

— 明治の近代化・工業化にはたした役割 —

平成27年 **10月17日(土)** ~ 平成28年 **10月11日(火)**

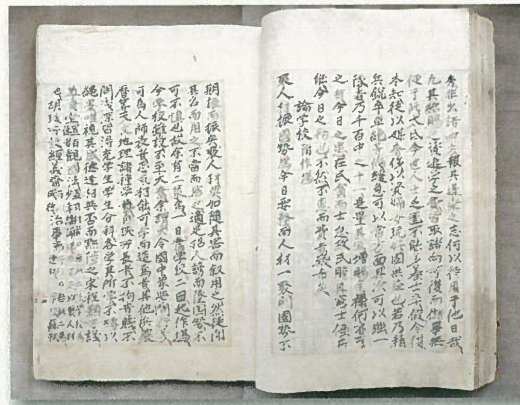


崎港新聞紙 「洋式高炉図」

オランダのヒュニゲンの著書にある高炉図を手描きで写したもので、松陰が早くから製鉄に注目していたことを示す資料。鉄鉱石から鉄を作るための高炉は、近代化・工業化に不可欠なものであった。

このたび、「松下村塾(舎、吉田松陰幽囚ノ旧宅)」が「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼・造船・石炭産業」の構成資産としてユネスコの世界文化遺産に登録されました。松下村塾を主宰した吉田松陰は、海防の観点から工学教育の重要性をいち早く提唱しました。その指導を受けた松下村塾生達のなかから、明治の近代化・工業化で重要な役割を担った多くの逸材が輩出されました。

本展覧会では、松陰が遺した工学教育に関する著述や、松下村塾の関係資料などを通して、塾生達の教育と、松下村塾が明治の近代化・工業化にはたした役割を紹介します。



戊午幽室文稿 「学校を論ず 附作場」

松陰が、学校と工場を連携させ、その相乗効果によって人材と産業の育成をはかるべきと説いた文章。松陰が日本の近代化・工業化を重視していたことがわかる。



松下村塾机

松下村塾で使われていた机

松陰神社宝物殿

至誠館

〒758-0011 山口県萩市椿東1537
TEL 0838-24-1027 FAX 0838-24-1028
e-mail hiji-chomoku@haginet.ne.jp



交通案内

山口宇部空港 (東京から約85分)	宇部市営バス 約35分 徒歩 約10分 草江駅	新山口駅 JR宇部線 約40分 乗合タクシー(要予約) 約90分	防長バス/JRバス 約70分	萩(ササケ)駅 防長バス 約15分 萩(ササケ)駅	松陰神社前 (東京から約80分)	萩・石見空港 バス 約10分	防長バス 約75分 JR山陰本線 約55分 乗合タクシー(要予約) 約90分	東萩駅 タクシー 約5分	松陰神社前
----------------------	----------------------------------	--	-------------------	---------------------------------	---------------------	-------------------	---	-----------------	-------

自家用車でお越しの方には、境内と神社前の交通公園に無料駐車場があります。

会期中、このチラシをご持参していただくと、5名様まで至誠館の入館料が2割引となります。なお、他の割引との併用はできません。